

桜塚

〔聖護院森の西南二町許にあり、是則宇治悪左府頼長の社地なり。塚上に桜を植ければ、世の人桜塚と呼ぶ、

実は左府塚なり。一年霊驗ありとて都下の貴賤群をなして詣す、今田圃の間に纔に遺るといへども、神威は新にして古今にかはらずと知られたり〕

善正寺

〔聖護院の東北二町にあり。法華宗にして本圀寺に属す。開基は日鋭上人、本願は関白秀次公の母義瑞龍院

日秀尼なり。則秀次公追福の為に建立し給ふ。秀次公の法名を善正院殿高岸道意と号す。当寺は山城国六檀林の一室なり、第四世日演上人興起す〕

釈迦堂 〔上壇の地、本堂の西にあり。本尊釈迦仏は金銅の坐像九寸余。元和元年二月十三日肥前国玉名郡中村の民人、

霊夢を感じて漁人の網に揚れり、希代の霊尊にして、宗徒常に詣す〕

弥勒石仏 〔聖護院の乾月輪川の東にあり。坐像長一丈六尺の大仏にして希代の大像なり〕

月輪

〔聖護院の北弥勒堂の西田の字にあり、是月輪兼実公の別荘旧跡なり。此地にも親鸞聖人しばらく居住し給ひ

しよし云伝へり、聖人旧跡の一員ならんか〕

右大臣吉備公像うだいじんきびこうのぞう

〔黒谷観音堂の内に安置す、衣冠黒袍を着して坐像尺許。元正帝養老丁巳年吉備公唐土に渡り

霊木を得る、聖武帝天平五年に帰朝して、行基菩薩とこゝろを合せ千手の像を刻めり、是観音堂の本尊なり、前編に見

へたり。大臣の像を置事は此謂によるならん。抑吉備公は本朝の儒宗にして、皇城に聖堂を建、先聖先師九哲の像を作

りて祀り、春秋二仲秋奠の具儀を稽へ、礼典の器物等嚴重に潤色し給ふ事、続日本紀に見へたり。又徂徠そらい学則曰、有

黄備氏ト云者出ルコト西学方ビ於中国ニ。作シテ為和訓ヲ。以教テフ国人ニ。〕

明星水みやうじやうすゐ

〔黒谷塔頭くろたに榮えい摂院せつにあり、名義詳ならず〕

稲荷社いなりのやしろ

〔真如堂しんにやだう門前の北にあり、当山の鎮守とす。鳥居の額、日本最初稲荷大明神と書す。寺説曰、むかし当山の

住職三ツの峯稲荷大明神を尊信して常に詣す。ある夜の夢に明神現れ給ひ、鈴声山れいしやうは清浄無垢の霊地なり、速に勧請す

べしと告あつて夢覚ぬ。夙に起堂前を見れば、奇童一人イみ手に宝珠を捧て曰、われは是稲荷の神使なり、此宝珠を汝

に与ふべしとの神勅なりとて授け、忽ち白狐と顕れ飛去ぬ。神慮奇異なりとて急ぎ三ツの峯に詣し、別当増円ぎやうゑんに此よし

を告るに、われも昨夜霊夢を感じ、其体符合すれば互に歡喜し、則神像を寄附せしめたり。故に当山の境内に社をいと

なみて仏法擁護の鎮守となしけり〕

迎称寺かうしやうじ

〔真如堂しんにやだうの乾にあり、時宗。初めは京極一条きやうごく だうにあり、故に一条道場だうといふ。往昔は天台宗、中頃一遍上人べんの化導によつて当宗と改む〕

本尊不空絹索観音ふくくわん 〔恵心ゑしんの作、立像五尺、其外阿弥陀仏、一遍上人べんの像あり〕

芝薬師しばやくし

〔迎称寺かうしやうじの西に隣る、靈芝山れいし たいこう大興寺と号す。元大宮五辻おほみや つじにあり、今芝薬師町しばやくしといふ。古は天台、今禅宗となる。東福寺とうふくじの潭月寂澄たんげつ じやくちよう禅師中興す〕

本尊薬師仏 〔運慶うんけいの作、坐像三尺五寸。十二神将、同作、立像三尺許。寺記曰、本尊は後鳥羽院ごとばの勅願所、仏工運慶うんけいに詔ありて坐像一軀を造らしめ給ふ。叡山えいざんの如来は婦人登る事を得ざれば、三宮のために禁闕の西の方に四町四方の地をひらき、仏殿、法堂、庫裏、僧塔、山門、鐘樓、方丈等を建給ふ。其後参議むさしの三位武藏守源朝臣かみなもの帰依甚渥しと云云。

関羽像くわんうのざう

〔当寺にあり。寺記曰、將軍尊氏公たかうちある夜の夢に、女来り告て云、今汝に百戦百勝の術を教へん、大元国に軍神を求て信仰すべしと。靈夢のごとく元朝に求むるに、関羽將軍くわんの像を送らるる。尊氏此寺たかうちの傍に安置し給ふ。庄園には丹州波見保たんしゅうは みほ、勢州天花寺せいしゅうてんげ じをの小埜村等の尊氏公たかうちの御教書、又は家臣かうのもろなほ高師直が状あり、又後鳥羽院ごとばのあん御寄附の仏舍利あり。